

平成 1 8 年度の取組課題と平成 1 9 年度の対応方向

エコフィード（食品残さの飼料化）の推進について

項目	1 8 年度の取組で明らかになった課題	1 9 年度の対応方向	具体的な推進の内容
消費者等に対する理解醸成	全国的にエコフィードの優良事例がみられる一方で、畜産農家、畜産物流通業者、配合飼料メーカー等において、消費者に不安感を与えるとして、エコフィードの利用に消極的な者もみられる。また、実際に、エコフィードに対する不安感を持つ消費者もみられる。	消費者等に対する不安感の払拭、循環型取組との理解を深めるため、エコフィードやエコフィード利用畜産物に関する一層の普及・広報を目的に、 ・シンポジウム開催やリーフレット等による P R。 ・食育等の取組の一貫として現地見学等の推進。 ・安全性ガイドラインの一層の P R。 ・エコフィード利用畜産物の科学的評価・P R の検討。	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の開催（全農政局等 9 ブロック） ・シンポジウム開催（全国・ブロック 1 0 回 / 年） ・会議・シンポジウム等でエコフィードの利用推進リーフレットの配布（6,000部） ・ブロック協議会等を通じ、小・中学校生徒を対象とした食品残さの飼料化施設の見学について、学校側に紹介 ・食品製造業者・飼料メーカー・畜産農家・流通業者・消費者等へのガイドライン配布（3,000部） ・補助事業によるエコフィード利用畜産物の科学的評価の実施
安定的利用体制の整備	エコフィードへの関心が高まっているが、食品循環資源の発生・加工・利用の状況等の情報を関係者が容易に入手することが困難。 また、飼料は、家畜に毎日一定の品質・量を供給する必要があるが、食品循環資源の発生・供給は不安定であり、地域においてエコフィードの安定的な供給・利用が可能となる体制の整備が必要。	各地域のエコフィードの安定的な利用体制を確立するため、 ・エコフィード認証制度の創設に向けた取組の推進。 ・全国的な食品循環資源の排出・利用実態や畜産生産者の意向調査等を実施し、HP等も活用した情報提供を検討・実施。 ・エコフィード流通を調整するオルガナイザーの育成・確保、関係者の研修等。 ・バイオマスタウン構想との連携強化等によるエコフィードの安定的な供給・利用体制の確立推進。 ・流通拠点であるリサイクル飼料製造施設の増加（H18:141 H19目標:150）。	<ul style="list-style-type: none"> ・エコフィード認証制度に向けた検討：認証規定（具体的な仕組み・審査手法等）、認証マークの検討等。 ・食品残さの飼料化工場の実態調査、飼料メーカー・畜産農家の利用実態調査の実施 ・HPでの食品残さの飼料化工場等の情報提供 ・中央畜産技術研修でのエコフィードに関する研修の実施 ・エコフィードに関心のある地域で、勉強会を開催し、取組の中核となる人材を育成・確保 ・ブロック協議会等を通じ、バイオマスタウン構想にエコフィードの取組みが盛り込まれるよう市町村等に推奨 ・補助事業等を活用し、地域におけるエコフィードの取組を具体化
技術の普及・定着の推進	食品残さの飼料化やエコフィードを用いた飼養に関する技術は確立しつつあるものの、その技術の普及・定着が十分でない。	エコフィード推進のための技術面での支援するため、 ・全国の大学や試験研究機関等の技術者・専門家との連携を強化・技術面でのサポートの実施。 ・品質の安定性の確保を図るため、栄養特性評価手法を確立。	<ul style="list-style-type: none"> ・HPでの「エコフィードに関する研究と行政等の連絡会議」メンバー公表 ・連絡会議でのエコフィード情報の共有 ・エコフィード計画地域への専門家紹介 ・近赤外線を用いた簡易な栄養特性評価手法の確立（H19年度）、P R ・未活用・低利用資源の掘り起こし
新たな食品リサイクル制度への対応	エコフィードの一層の推進の観点から、食料・農業・農村政策審議会及び中央環境審議会の合同会議で提言された食品リサイクル制度の見直しの活用・対応の検討が必要。	新たな食品リサイクル制度の活用・対応のための具体的な実践方を検討・実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック推進会議等で関係者に新たな食品リサイクル制度を説明 ・新たな食品リサイクル制度の活用事例の調査・分析 ・活用事例の紹介

飼料自給率向上に向けた平成19年度行動計画(工程表)

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 飼料自給率向上のための推進体制の整備		各主体ごとの飼料自給率向上戦略会議 (都道府県、農業団体)	現地検討会								飼料自給率向上戦略会議	飼料自給率向上戦略会議 (平成19年度行動計画の点検・検証 平成20年度行動計画の策定)
												農林水産省 飼料自給率向上戦略会議
2 自給飼料増産のための具体的行動計画の策定と検証		全国飼料増産行動会議 (平成19年度行動計画の策定)										全国飼料増産行動会議 (平成19年度行動計画の点検・検証 平成20年度行動計画の策定)
	飼料増産運動	第1回幹事会					第2回幹事会					第3回幹事会
WCS(稲発酵粗飼料)の作付拡大												飼料作付面積の拡大
	トモロコシの作付拡大											稲発酵粗飼料作付面積の拡大
国産稲わら利用拡大												トモロコシの作付拡大
	放牧の推進 (水田放牧の推進)											国産稲わらの飼料利用の拡大と自給100%の達成
外部化の推進												水田放牧の取組拡大 (肉用牛の増頭)
												コントラクターの受託作業面積の拡大
3 食品残さ飼料化推進のための具体的行動計画の策定と検証		全国食品残さ飼料化行動会議 (平成19年度行動計画の策定)										全国食品残さ飼料化行動会議 (平成19年度行動計画の点検・検証 平成20年度行動計画の策定)
	技術者・専門家との連携強化	勉強会等の実施	専門家ネットワークの整備									エコフィード専門家の連携体制整備
エコフィード認証制度の検討		エコフィード安全性確保ガイドラインのPR	食品循環資源の排出実態調査	飼料利用工場実態調査	畜産農家意向調査							エコフィード認証制度の検討
	新たな食品リサイクル制度への対応	エコフィード栄養特性評価手法の開発										認証制度立ち上げ
												手法の確立・PR
												新たな食品リサイクル制度への対応検討
												新たな食品リサイクル制度の活用の実践

